

平成29年度 大阪大学大学院科目等履修生高度プログラム

平成28年9月30日

プログラム名	和文	デジタルヒューマニティーズ：分析方法論と実践		
	英文	Digital Humanities: Methodology and Praxis		
履修対象者 ※該当以外を削除	社会人		履修期間	1年
修了要件	8単位以上			
趣旨・概要	Project GutenbergやGoogle Booksに代表される大規模なテキストアーカイブの出現、Web 2.0の登場を契機に指数関数的に増加するWebページ、各種電子コーパスの整備・普及、さらにユーザーフレンドリーなインターフェイスを備えた高機能コンコーダナーの開発は、言語研究はもちろん、人文学研究一般にも新たな次元をもたらしつつある。デジタル化されたテキストの利点はなによりもノンリニアな分析処理を可能にすることである。デジタルテキストは単なる文字列、単語の集合体ではなく、時にはベクトルや数値行列に変換され、統計解析を施すことにより、従来のリニアなアプローチでは不可能なパターンや現象を視覚化することを可能にする。こうしたデジタルヒューマニティーズの取り組み、方法論と実践を通して人文学データを新たな角度から読みなおすのが当プログラムが目指すところである。			
到達目標（修了時に身に付く能力）	当プログラムは、提供するコースワークを通して、デジタル化した人文学的データを的確に処理し、ニーズに合致した情報の鉱脈を掘り当て活用する高度な「デジタルヒューマニティーズ・リテラシー」を修得することを目標とする。			
カリキュラムの構成	当プログラムは、自然言語処理のモジュールとコーパスマイニング、統計数理解析に関するモジュールによって構成されている。それぞれのモジュールで基礎理論と応用実践の方法論を有機的に組み合わせ教授する。自然言語処理では言語データを取り扱うためのプログラミングや、処理ツールを駆使する技法を習得する。コーパスマイニングに関しては、コーパスデザインに関する理論や、人文学資料の電子化・構造化に関する基礎論からテキスト電子化のため国際共通規格であるTEI (Text Encoding Initiative)などについて学ぶ。さらに、データ解析のための統計数理モデルに関する講義を行うとともに、実践的なコーパス分析から解析結果の視覚化(Visualization)技術を応用し、いわゆる'Distant Reading' (Franco Moretti, 2013)の演習を行う。			
履修資格・条件	特になし			
前提知識の目安	特になし			
特記事項	プログラムに該当する授業の内容は、KOANのシラバスと各授業の第1回目にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。			

構成科目

時間割コード	授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	年間時間数	開講部局(課程)	備考
		必修	選必	選択				
300311	コーパス言語学研究A			2	1-2学期	30	言語文化研究科(博士前期)	
300312	コーパス言語学研究B			2	3-4学期	30	言語文化研究科(博士前期)	
300315	コーパス言語学研究A			2	1-2学期	30	言語文化研究科(博士前期)	
300316	コーパス言語学研究B			2	3-4学期	30	言語文化研究科(博士前期)	
300349	コーパス言語学研究A			2	1-2学期	30	言語文化研究科(博士前期)	
300350	コーパス言語学研究B			2	3-4学期	30	言語文化研究科(博士前期)	
300398	自然言語処理A			2	1-2学期	30	言語文化研究科(博士前期)	
300399	自然言語処理B			2	3-4学期	30	言語文化研究科(博士前期)	